

小学校第6学年 体育科 学習指導案

期 日 平成28年11月9日(水) 第 校時

場 所 八代市立松高小学校 体育館

指導者 教諭 渡瀬 洋

1 単元名

ゴール型「バスケットボール」

2 単元について

(1) 単元観

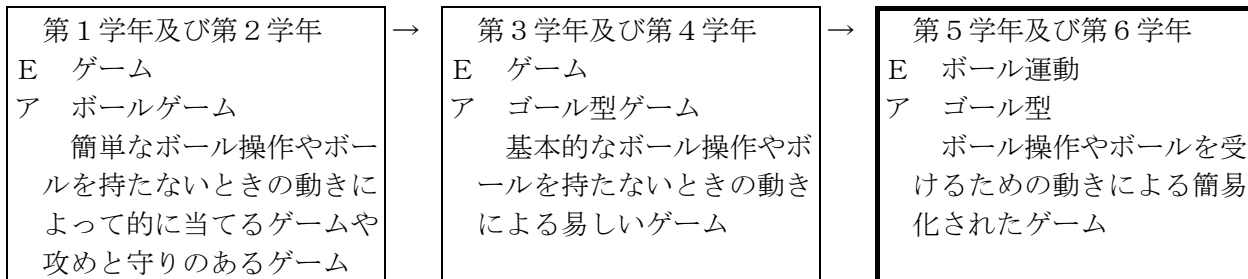
本単元は、小学校学習指導要領体育第5学年及び第6学年の目標(1)「活動を工夫して各種の運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、その特性に応じた基本的な技能を身に付け、体力を高める」を受け、内容E(1)ア「ゴール型では、簡易化されたゲームで、ボール操作やボールを受けるための動きによって、攻防をすること」を学習する単元である。また、目標(2)「協力、公正などの態度を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を育てる」を受け、内容E(2)「活動に進んで取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする」ことを学習する単元でもある。

バスケットボールは、「仲間と協力しながら、ドリブルやパスを使ってボールをゴール前まで運んだり籠型のゴールにシュートをしたりして得点を競い合う」ゲームである(特性)。そのため、その特性を味わうために必要な個人技能と集団技能の習得が主な学習課題となる。

バスケットボールは、身体接触を禁止としていること、大きくて操作しやすいボールを使用することから、運動することやボール運動を苦手としている児童も取り組みやすいゲームである。また、ルールを工夫した(攻撃優位のルールにした)簡易化されたゲームを行い、チームの作戦が立てやすく、そして実行しやすいゲームにすることで、本単元の学習は、チームの作戦を考えたり振り返ったりする話し合い活動が展開しやすく、言語活動の充実が期待できる。

また、目標(2)や内容E(2)を受けて学習する本単元において、バスケットボールの学習を行うことは、「思いやる心」という資質・能力の獲得にもつながり、本校の校訓にある「仲よく」や目指す児童像に示されている「仲よく協力する」児童の育成につながるものであると捉える。

(2) 系統観



(3) 児童観(男子20名 女子18名 計38名)

- 8割以上の児童が体育の授業やボール運動の学習を好意的に捉えており、積極的に学習に取り組む姿が多くみられるが、「体を動かすことが好きではない」「ボールが怖い」などの理由から、体育の授業やボール運動の学習に消極的な児童が7, 8名いる。
- 体力総合判定結果でA又はBの児童が5割を超える一方、D又はEの児童が3割いて、個人差の激しい集団である。
- バスケットボールの学習を5年時に経験済みであるため、基本的な技能の習得や大まかなルールの理解はある程度できている。
- 普段の体育学習で、ペアやグループによる教え合い活動などを取り入れているので、相手の意見を聞く、尊重する態度が育っている児童が多い。

体育の授業に関する意識調査結果

- 体育の授業は好きですか
「とても好き」「好き」……31名
「あまり好きではない」……7名
- ボール運動は好きですか
「とても好き」「好き」……31名
「あまり好きではない」……7名

体力・運動能力調査結果

- 県平均値(前年度)との比較
8種目中、男子は6種目、女子は3種目で下回っている。
- 総合判定結果
A……6名、B……11名
C……11名、D……5名
E……5名、未受検……1名

(4) 指導観

| | |
|---|---|
| <p>学びを引き出す 学習活動を生む 「問い」の工夫 (言語活動の充実)</p> | <p>①仲間を理解し、仲間と協力しなければ解決（達成）できない学習課題を設定することによって、資質・能力「思いやる心」を働かせながら活動する協働的な学習を展開させる。</p> |
| <p>学びを振り返る 思考過程の可視化と 学びの振り返り</p> | <p>②設定したり選択したりした活動（ルールや作戦）の理由について記入するワークシートを使用し、グループ内の考えを共有化したり、考えの変容が見取れるように可視化する。 ③振り返りの場面において、学習課題に対する振り返りだけでなく、学習活動に対する振り返りも行うことで、資質・能力「思いやる心」を意識した学習活動につなげる。</p> |
| <p>学びを支える 学びのUD化とICTの 活用及び支持的風土</p> | <p>④体力・運動能力や運動の技能、資質・能力「思いやる心」において多様なメンバーで編成したグループが協力し合い協働的に学習を進めることができるよう、日常的に、児童同士のダイバーシティ（多様性）を認め合う学級集団の育成に努める。</p> |

◇その他の留意事項

○「体を動かすことが好きではない」「ボールが怖い」などの理由から、体育の授業やボール運動の学習に消極的な児童が7、8名いるので、基本技能の習得のための時間を十分に確保したり、練習やゲームにおいて活動（運動）しやすい環境を整えたり（一人一人の役割等を明確にするなど）して、活動の場や内容を工夫する。

○体力・運動能力の個人差が大きい集団であることから、グループ活動を中心に学習を進めていくためには、児童一人一人がお互いを理解し合い、「思いやる心」を持って活動しなければならないことを意識させるようにする。

◇インクルーシブ教育の視点から

【基礎的環境整備】

○学びに対する構えの確立を図り、集中した学習ができるように、本校が取り組んでいる「授業のきまり」を徹底する。

○児童が見通しを持って学習に取り組むことができるように、活動内容や学習内容を視覚的に捉えられるような掲示物を用意する。

○児童が学習にスムーズに取り組むことができるように、発問や指示を明確にする。

○活動時間が分かるように、音楽やタイマーなどを活用する。

○お互いの発表をきちんと聞く態度を徹底させ、発表したことに対する安心感と達成感を味わえるような支持的風土を高める。

【合理的配慮】特別支援学級に在籍する児童が2名（男子1名、女子1名）いるので、次の点に留意する。

○表記した漢字が読めないことがあるので、オリエンテーションや話し合い活動のときに、T2（特別支援学級担任）が該当児童の近くで個別に支援する。

○一斉指導では、活動の仕方や動き方の理解が困難な場合があるので、個別指導（繰り返し指導など）で対応する。

3 単元の目標と評価規準（参考：国立教育政策研究所作成「評価規準の設定例」）

| | | | |
|--|---|--|---|
| 単元の目標 | (1) チームの連係による攻撃や守備によって攻防するためのバスケットボールの技能を身に付けることができる。 | | |
| | (2) 練習やゲームに進んで取り組み、ルールを守り助け合って活動したり、場や用具の安全に気を配ったりすることができる。 | | |
| (3) ルールを工夫したり、自分の特徴に応じた作戦を立てたりすることができる。 | | | |
| 運動への関心・意欲・態度 | | 運動についての思考・判断 | 運動の技能 |
| ①集団対集団で競い合う楽しさや喜びに触れることができるよう、バスケットボールの練習やゲームに進んで取り組もうとしている。 | | ①バスケットボールのゲームの行い方を知るとともに、簡易化されたゲームを行うためのルールを選んでいる。 | ①ゴール型では、簡易化されたゲームで、攻守が入り交じた攻防をするためのボール操作やボールを受けるための動きができて |
| ②ルールやマナーを守り、友だちと助け合って練習やゲームをしようとしている。 | | ②チームの特徴に応じた攻め方を知るとともに、自分のチームの特徴に合った作戦を立てている。 | いる。 |
| ③用具の準備や片付けで、分担された役割を果たそうとしている。 | | | |
| ④運動をする場を整備したり、用具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。 | | | |

4 指導・評価の計画（7時間取扱い 本時6／7）

| 次 | 時 | 主な学習活動 | 評価 | 研究の視点 |
|---|---|--|------------------------------------|--|
| 一 | 1 | オリエンテーション ○グループ編成 ○学習計画について ○ゲームのルールについて ○活動のマナーについて ウォーミングアップタイム | 【関心・意欲・態度】 ③：観察 | 【学びを引き出す】 ①学習課題に対する理解 【学びを支える】 ④多様性のあるメンバーで構成したグループ編成 |
| 二 | 2 | スキルアップタイム フレンドリーマッチ | 【関心・意欲・態度】 ④：観察 | 【学びを振り返る】 ②活動（作戦等）の設定や選択に対する理由の意識化 ③学習課題と学習活動に対する振り返りの設定 |
| | 3 | | 【技能】 ①：観察 | |
| 三 | 4 | スキルアップタイム テストマッチ | 【関心・意欲・態度】 ①：観察 | |
| | 5 | | 【思考・判断】 ①：観察，ワークシート | |
| | 6 | | 【思考・判断】 ②：観察，ワークシート | |
| 四 | 7 | まとめのゲーム | 【関心・意欲・態度】 ②：観察 【技能】 ①：観察 | |

5 学習活動の計画

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6（本時） | 7 |
|----|------------------|-----------|---|-----------|---|-------|-------------|
| 0 | 準備・健康観察・準備運動等 | | | | | | |
| 10 | オリエンテーション | スキルアップタイム | | スキルアップタイム | | | マッタカップ |
| 20 | | | | オリエンテーション | | | |
| 30 | ウォーミングアップ タイム | フレンドリーマッチ | | テストマッチ | | | まとめの ゲーム |
| 40 | | | | | | | |
| 45 | 整理運動・まとめ・片付け等 | | | | | | |

6 本時の学習

(1) 目標

チームの特徴に合った作戦（自分の役割）を立てることができる（思考・判断）。

(2) 展開

| 過程 | 学 習 活 動 | 指導上の留意点及び評価 | 備考 |
|-----------|--|--|---------------|
| 導入 10分 | 1 健康観察，準備運動を行う。 2 スキルアップタイムを行う。 ○ピボット&ドリブル&シュート ○2対1 | ○朝の健康観察の結果を考慮して健康観察を実施する。 ○協力して活動することを大切にする。 毎時間継続して実施することで，技能習得，向上の機会を確保する。 | ボール ビブス |
| 展開 30分 | 3 本時の目標と学習課題を確認する。 [学習目標] チームの特徴に合った作戦（自分の役割）を立てることができる。 [学習課題] チーム：チームの作戦（ポジション）を決めよう。 個人：作戦が成功するための自分の役割を理解して実行しよう。 | ○目標や学習課題だけでなく，学習計画や学習展開を掲示し，児童が学習に見通しを持って取り組むことができるようにする。 | ワークシート 掲示板 |
| | 4 テストマッチを行う。 (1) 作戦タイム 【言語活動】（設定の意図） 設定した作戦（ポジションや各メンバーの役割をチーム全員が理解してゲームに臨むことができるよう確認し合う。 (2) ゲーム 活動例) Aチーム ①vsB ②運営（CvsD） ③運営（BvsD） ④vsC ⑤運営（BvsC） ⑥vsD (3) テストマッチの振り返りと次時の課題設定 【言語活動】（設定の意図） 作戦（ポジションと各メンバーの役割）はチームの特徴に合ったものになっていたか，評価し合い，その結果を踏まえ，次時の作戦を設定する。 | 徹底指導 （ポイント） 学習課題の確認とテストマッチの作戦タイムの活動を通して，設定した作戦（ポジションと自分の役割）を理解させる。 ○テストマッチを行う目的を十分に理解させ（オールコートでは，ルールを理解と作戦の試行が目的であること，ハーフコートでは空間（スペース）を生かした攻めが展開できるようになることが目的であること），ゲームを実施するようにする。 ○運営では，ゲームがスムーズに進行するようなサポートを心がけさせる。 ○迅速な行動を心がけさせ，時間を有効に使うようにする。 能動型学習 （ポイント） テストマッチのゲームを自主運営で行い，児童の主体性や責任感，協力する態度を育てる。 | タイマー 得点版 |
| | | 評価：思考・判断（観察，ワークシート） B基準 チームの特徴に合った作戦（ポジションと自分の役割）を立てている。 A基準 B基準に加え，立てている作戦がチームとしての機能を高めるものとなっている。 〈B基準に達していない児童への手立て〉 ○作戦設定の意図を理解させ，自分のできることを整理させる。 | ワークシート |
| 整理 5分 | 6 まとめを行う。 (1) 学習の振り返り (2) 整理運動，片付けを行う。 | 【視点2】学びの振り返り 振り返りでは，学習課題に対する振り返りと学習活動に対する振り返りを行う。 ○片付けは役割分担等，協力して行うようにする。 | ワークシート |